

英語科授業案

日時 平成26年7月10日(木) 5校時
生徒 2年C組 男子13名 女子20名 計33名
授業場 2年C組教室
授業者 造田あかね

1 単元名 Sunshine English Course 2 My project4 対話をつなげよう

2 単元について

(1) 単元観

社会や経済のグローバル化が進む今日の日本において、国際競争は加速し、一方で異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性が増大している。また昨年決定した2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、文部科学省は平成25年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を打ち出し、グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方について議論が進められている。これによると現行の学習指導要領で目標としている「コミュニケーション能力の基礎を養うこと」から目標をより具体化し、「身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う」こととなり、より高い外国語能力が求められるようになってきている。

本単元ではこれまで学習したことを生かして、対話をつなげる技術を身に付けることをねらいとしている。これは、学習指導要領で述べられている「ア 聞くこと」の「(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。」「イ 話すこと」の「(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。」について学ぶ。これらは同じく学習指導要領で取り上げるべきとされているコミュニケーションを円滑にする「言語の働き」についても体系的に学ぶ機会となる。

本単元で生徒が学ぶ言語の働きは、1年生で既習の what、where、who、when、how の疑問詞を含む疑問文や because を用いた理由の言い方、2年生では前単元の Program3 での新出言語材料である I think that など多くの既習事項を活用するものである。また生徒はこれまで教科書本文や ALT とのやりとり等を通じて、「相づちをうつ」「聞き直す」「繰り返す」などを英語の表現として触れ、実際の会話の中でも使用した経験がある。しかしこれらの言語の働きに着目し、コミュニケーション方略として言語の機能をまとめて学習する単元はなかった。本単元では対話をつなぐ時の技術として「質問する」「相づちをうつ」「内容を確認する」「内容を繰り返す」「自分の意見や感想を言う」といった対話を学ぶことで、方略的にコミュニケーションを発展させる術を学習する。これにより英語を用いて一方的に情報を発信したり受け取ったりするだけではなく、身につける機会としたい。意図的に対話をつなげる工夫をし、それによって会話の内容に深みを持たせ、身近な他者であるクラスメイトについて知る喜びを感じさせたい。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

以上を踏まえ、本単元ではこれまで様々な単元に散りばめられてきたコミュニケーションの方略を分類し、コミュニケーションを発展させるためのコツとして学び直す。その際、前提として必要となる疑問詞を含む疑問文での応答や、自分の意見や感想の言い方については授業開始時に帯活動で復習を目的とした対話練習を行い、方略として質問や意見を使えるようにしたい。教科書では単元名にあるように対話をつなげることに中心課題が設定されている。しかしあくまでも学習指導要領にある「積極的に自分の考えを相手に伝えようしたり、相手の考えを理解しようしたりする」態度を育成することが最終的な目標である。よって、生徒に技術を活用して相手を知るということを意識させるよう働きかけ、クラスメイトという身近な他者について英語を用いて新たなことを知る喜びを感じさせたい。そこで本単元では対話をつなげた上で目指す会話の条件として「①(相手について)知りたいことを聞ける、②(自分について)伝えたいことをはなせる、③新しい発見がある」を挙げ、学習課題を「話をつなげて『いい会話』をしよう」と設定する。

英語科では目指す生徒の姿を「既習事項の中から適切な言葉を選び、話し方・書き方を工夫しながら、英語で自分の思いや考えを相手に粘り強く伝えることができる」生徒、つまり「コミュニケーションが豊かに行われている姿」と設定している。研究に関わっては視点3「反省と自覚の関与」の「実践や生活とは外在的な知、技」(消極次元)から「実践や生活にかかわるような知、技」(積極次元)に視点を置き、今年度の研究を推進している。そこで生徒を自律に導けるよう、次の手立てを講じる。

単元・授業の構成における手立て

既習事項を用いて、自分に関連することを表現できる課題を設定する。A

本単元においては、「対話を行う際に生徒に話題を選択させ、会話を行う場面を設定する」ことで、実際に生徒の興味関心や生活に関係することについてのコミュニケーションを図ることができるようになっていくと考える。

反省と自覚を促す手立て(研究変数)

協同の場において、振り返る際の視点の持たせ方を工夫する。B

英語科では、英語を適切に表現するには、自ら間違いを訂正する力(モニタリング力)が必要であると考え。主観的な「積極的に会話できた」や「用法を理解できた」という振り返りではなく、やりとりしたことを、具体的な視点と照らし合わせ、できたこと、できなかったことが明確になるように振り返りを行う。そしてどうしたら効果的に活用できるのかをペアで考えることで生徒の自律性を高めることができるようになると思う。

本単元においては生徒が自身の会話の内容を録音(録画)したものを文字に書き起こし、「いい会話」と「対話を発展させるコツ」という2つの視点からペアで振り返ることにより、「やれること」=「何ができ、何ができないか」を生徒が自覚できるようになるだろうと考える。

3 単元の目標

対話をつなげる技術として「質問する」「相づちをうつ」「内容を確認する」「内容を繰り返す」「自分の意見や感想を言う」という言語の働きがあることについて理解し、それらを意図的に用いて対話をつなげ、互いのことを伝え合うことができるようにする。

4 単元の評価基準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
㊦対話をつなげる技術を用いて積極的に対話を続けようとする。	㊦「質問」や「相づち」などの技術を用いて対話を続けることができる。	㊦「質問」や「確認」などを通して、対話相手の意向を理解することができる。	㊦「質問」や「相づち」などの言語の働きを理解している。

5 単元指導計画

時	学習事項	主な学習活動・手だて	評価			
			関	表	理	知
1	My Project4 ～対話をつなげる	○「いい会話」とはどのような会話か考える。 ○会話をし、録音をもとに振り返る。B	ア			
2	方法～ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 話をつなげて 「いい会話」を しよう A </div>	○実際の対話をもとに「いい会話」にするための具体策を考える。 ○対話を発展させるコツ「質問」「確認」「相づち」「くり返し」「意見・感想」についてそれぞれ練習する。 ○会話をし、録音をもとに振り返る。B		ア		ア
3 本時		○録音した対話を文字に起こし、対話の内容を分析する。B ○より「いい会話」にするための方策を考える。 ○対話をつなげる技術を意図的に取り入れながら対話をする。	ア	ア	ア	

6 本時案

(1) 本時の目標

「質問する」「相づちをうつ」「内容を確認する」「内容を繰り返す」「自分の意見や感想を言う」という言語の働きを意図的に用いて対話をつなげ、互いのことを伝え合うことができる。

(2) 本時の展開 (本時 3/3 時間) (○…発問、△…補助発問、□…指示、説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手だて	【評価方法】・備考
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">話をつなげて「いい会話」をしよう</div>		
<p>1 前時までの学習を想起し、本時で達成する課題を把握することができる。</p>	<p>○「いい会話」とはどのような会話でしたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">① 知りたいことを聞ける ② 伝えたいことを言える ③ 新しい発見がある</div>	<p>【発表】</p>
<p>2 前時の会話を聞いて文字に起こし、どのコツが使われていたか分析することができる。</p>	<p>○対話を発展させるコツにはどのようなものがありましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">1 質問 2 確認 3 相づち 4 繰り返し 5 意見・感想</div> <p>□前回の会話をより良いものにしましょう。B まず録音を聞いて、文字におこしましょう。次にどのコツを使っていたか分析しましょう。</p> <p>△この英文は対話を発展させるコツのどれにあたりますか。</p>	<p>【発表】</p> <p>【ワークシート】 ・ワークシート配付</p>
<p>3 前時の会話をより「いい会話」にするために対話を発展させるコツを用いて追加、修正することができる。</p>	<p>□ペアで協力してより「いい会話」をつくりましょう。</p> <p>□追加・修正した部分は色ペンで書きましょう。</p>	<p>【ワークシート】</p>
<p>4 ペアで作成したより「いい会話」のスキットをもとに会話をすることができる。</p>	<p>□ペアで考えたより「いい会話」のスキットをもとに会話をしましょう。</p>	<p>【観察】</p>
<p>5 クラスメイトの会話を聞いて、どのような工夫がされていたか気付き、発表することができる。</p>	<p>□前の時間の会話と、変更を加えた今日の会話を発表しましょう。</p> <p>○どのような工夫をしていましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">・相づちが増えていた ・話が深まっていた ・コツの種類が増えていた</div>	<p>【発表】</p>
<p>6 「できること」「できないこと」を振り返り、今後の学習に向けた思いを書くことができる。</p>	<p>□今日の会話を振り返りましょう。</p> <p>□単元を振り返りましょう。</p>	<p>【ワークシート】</p>

2年 _____ 組 _____ 番 名前 _____

My Project ④ ～対話をつなげよう～

「いい会話」とは

① 知りたいことを聞ける ② 伝えたいことを言える ③ 新しい発見がある

対話をつなげるコツ

K1 相手が言った内容について質問 K2 確認 K3 相づち K4 繰り返し K5 意見や感想

【3回目】 _____ 月 _____ 日 パートナー _____

①対話の数	3往復以下	3往復半	4往復	4往復半	5往復以上
②対話をつなげる工夫ができたか	できなかった	1つできた	2つできた	3つできた	4つ以上
③知らなかったことを聞けたか	全く聞けなかった	1つ聞けた	2つ聞けた	3つ聞けた	4つ以上
④言いたいことを言えたか	全く言えなかった	1つ言えた	2つ言えた	3つ言えた	4つ以上

「いい会話」はできましたか？10点満点で評価し、理由を書きましょう。

点

◆「話をつなげて『いい会話』をしよう」の単元を通して振り返りましょう。◆

1. 3時間の授業を終えてどんなことがわかったりできるようになりましたか。

2. 3時間の授業を終えて、できない、難しいと感じたのはどんなことですか。

3. 今後の英語の学習に向けて。